

## 平成 28 年度 和歌山県発達障害者支援センター ポラリス 講演会

### 「 社会に出る前に身につけたいこと 」

～ 本人を支える家族の役割・支援者の役割 ～

講 師      NPO 法人 ラヴィータ研究所  
                 子ども発達相談センター・リソース 「和」  
                 所 長      米田 和子 氏



平成 28 年 7 月 2 日(土)、和歌山市北コミュニティセンターにて、和歌山県発達障害者支援センターポラリス講演会を開催致しました。今回は、NPO 法人ラヴィータ研究所 子ども発達相談センター・リソース「和」所長 米田 和子先生をお招きし、ご講演頂きました。「社会に出る前に身につけておきたいこと ～本人を支える家族の役割・支援者の役割～」というテーマで、2 部に分けてのご講演と、聴講者からの質疑にお応え頂きました。

第 1 部講演は下記の通りです。

平成 17 年に発達障害者支援法が施行されてから、様々な制度や支援機関が整備されてきた。発達障害に関する一般的な理解は広まっている。周囲が本人の発達特性に気づくことが増え、相談は増加している。早い時期から支援を希望するケースが増えているのはよい傾向である。保護者が、“皆と一緒にやり方”にこだわり、本人に合った別のやり方でも良いことを受け入れられない場合、子ども自身も“皆と一緒にやり方”にこだわりのりやすくなる。その結果、必要な支援が受けられず、二次的な障害に繋がりがやすくなる。

中学・高校・大学など、年齢が上がってから診断を受け支援につながるケースも増えている。それまで適切な支援を受けていないため、二次的な障害を引き起こしているケースは多い。自信低下や問題行動などの二次的な障害を防ぐためには、できるだけ早い時期から本人の発達特性を周囲が理解して、必要な支援につなげていくことが大切である。

発達特性は脳機能に由来する。支援者と本人とでは、脳の働き方が違うため、物事に対する考え方や感じ方も違って来る。脳機能の違いを乗り越えるためには、支援者が本人の発達特性を理解して対応するだけでなく、本人も社会適応していくための具体的な方法を支援者から学ぶ必要がある。

成人した当事者からは、「皆と一緒に活動するための具体的な方法を教えてほしいと以前から思っていた」という声が聞かれる。本人の出来なさを否定するのではなく、どのようにすればよいかを具体的に教えていくことが大切である。“「感情」は受け止めて「行動」は修正する”という考えのもと、本人の適応的な行動を増やしていくことが大切である。

本人が周囲から支援を受けながら、自分の発達特性や得意・苦手を知っていくことは、将来自立して生活し

ていくためには非常に重要である。誰にでも得意と苦手があるということ、苦手なことは助けてもらえばよいということ、適切な方法で助けを求めれば応えてもらえるということをも本人に伝えていくことは、保護者や支援者の重要な役割である。

同じ発達障害という診断名であっても特性は個々によって異なる。一人一人の困り感を理解して、それぞれの発達特性に合わせた支援を考えていくことが重要である。ペアレント・トレーニングは、行動療法の考え方に基づくグループ・プログラムに参加することを通して、保護者が子どもとのより良い関わり方を学んでいく取り組みである。子どもの行動をよく観察し、特性を理解することで、一人一人の子どもに合った支援方法を見つけていくことを目指す。具体的な行動を取り上げて褒めることで、子どもの適応行動は増え、不適応行動は減っていく。保護者が本人の発達特性を理解して受け止め、適切な行動を具体的に教えながら褒めることで親子関係を良くしていくことが大切である。子どもが、自分から保護者に助けを求められるようになることは、二次的な障害を予防することに繋がる。

第2部講演は下記の通りです。

高校・大学になると、学習面では本人の能力に合った学校を選びやすくなるが、発達特性を持った本人の場合、皆と同じようには物事を理解しにくい場合がある。特に就労支援を行う場合は、個別に対応していく必要がある。

今年の4月から障害者差別解消法が施行された。学校でも、診断の有無に関わらず困難が生じているという事実があれば支援をしなければならない。支援が必要な場合においては、自分から要求していく方がプラスにつながる。

アメリカの学校では、発達障害を持った学生の専門コースがある。2年間学習した後、1年間就労移行に取り組んでいる。カリキュラムの中では、ソーシャルスキルや自分に合った学習方法、いじめへの対応、性教育のカリキュラムも含まれている。これらの取り組みでは、自尊感情を高めること、自己決定すること、共同体意識を育てることが重要だと考えられている。

堺市で行っている親の会では、15年前から小学生と中高生のグループでソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいる。ソーシャルスキルトレーニングでは、人とうまく関わるためのスキルを学んでいる。まず、スキルの必要性やメリットを理解し、手本を見ながら具体的な方法を学び、ロールプレイを通して練習することに取り組む。参加者にとっては、社会で必要なルールを学ぶ機会として役立つ。また、参加者の多くは、同年代の仲間ができていくため、グループ活動を通して居場所を得ることが安心感に繋がることも多い。

現在は日本でも、ソーシャルスキルトレーニングを行っている学校が少しずつ増えている。ソーシャルスキルは、日常生活の中で実践しながら身につけていくことが重要である。普段から子どもの良い行動に注目し、その場で具体的な行動を取り上げて褒めることで良い行動を増やしていきたい。20歳の半分の10歳からは、大人への準備を始めていきたい。子どもだから許される行動などは、10歳の誕生日を境に、社会的に許容される適切な行動に変えていくことが大切である。

就労の段階で自己理解に躓いているケースは多い。就職してから支援が必要になるケースでは、本人が自己理解できておらず、支援を受け入れにくいことがある。そのため、本人の得意と苦手は小さい頃から意識して

おきたい。学習が出来ても、日常生活場面での自立活動が出来ていないと、就労で上手くいかないことが多い。小さい頃からお手伝いをさせて、料理や洗濯、掃除などに取り組んでおくことが、就労先の選択肢を増やすことにも繋がる。

自立に向けた保護者・支援者の役割としては、本人の苦手さをあえて指摘せず、出来ていることを具体的に褒めることが大切である。本人が大人に相談できた時は、相談できたこと自体を褒めることで、相談してよかったと思える気持ちを育てていく。本人に情報を与えて自己決定できるように支援することも大切である。自己決定を支援することで、自分は周囲から信頼されているという安心感が育つ。

以上の内容で、長時間にわたり貴重なご講演を頂きました。

### 【 質疑応答 】

#### ・ペアレント・トレーニング、ティーチャーズ・トレーニングについて

これらのプログラムでは、支援方法を沢山学ぶのではなく、本人の行動を分析する方法について学ぶ。そうすることで、保護者や先生が、本人に合った具体的な支援方法を考えられるようになることを目指す。プログラムを広めていくため、現在はトレーナー養成に力を入れている。

#### ・大人の発達障害の支援について

成人期の子どもを持つ保護者としては、本人の気持ちに共感しながら情緒的に支えることと、成人期に対応できる支援機関の情報を集めて本人に伝えることが大切である。保護者だけでは限界があるため、できるだけ困っていることを周囲に伝えて、支援者を増やしていきたい。支援者としては、日々のしんどさを抱える本人に対して気長に関わり続けてもらいたい。

最後に、米田先生には大変お忙しい中ご講演を引き受けて頂き、誠にありがとうございました。「わかりやすいお話で内容に引き込まれた」、「先生のご家族のお話が聞いて嬉しかった」など、皆様からご好評を頂いております。本当にありがとうございました。

末筆にはなりませんが、米田先生が今後ますますご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。



## 皆様からの声

講演会終了後、アンケートを回収させていただきました。

以下 いただきましたご意見を一部抜粋して掲載させていただきます。

* アンケート回収枚数	174 枚	うち	参考になった	→ 158
			どちらでもない	→ 2
			参考にならなかった	→ 1
			記入なし	→ 13

### みなさまからいただいた感想から

- ・先生の熱い思いが伝わってきた。実務に精通して経験豊かな点に感動した。
- ・先生の障害者に対するまなざしや保護者への理解の仕方が、目指すべき共生社会を示してくれているようだった。
- ・支援している子どもや保護者の悩み、わが子の子育てで悩むことと重なり涙が出そうになった。
- ・包み隠さず娘さんの話をしてくれて心にしみ入りました。暖かいメッセージが伝わった。
- ・質疑応答での先生ご自身の話は、先生でもこういう時があるのかとほっとさせられるエピソードだった。
- ・先生が子どもを受け入れられないという話は、受け入れたつもりの親が考えるきっかけになったと思う。
- ・話のテンポが良くポイントもわかりやすかった。
- ・実際の事例を交えながら具体的な解決方法が聞けて分かりやすかった。
- ・保育の現場でも取り組めるヒントがあり良かった。
- ・最良の支援者は保護者である、という言葉が響いた。
- ・子育てのスペシャリストとはあなたのこと、という言葉で認められたことがすごく嬉しくて自信がついた。
- ・ありのままの子どもを受け止めるところから支援は始まる、ということばが印象的だった。
- ・子どもが小学生だが、今から準備すると良い点がたくさん学べた。
- ・将来の自立や就労が不安だったが、子どもに合った支援ができると希望が持てた。
- ・できていることを具体的にほめる、相談できたら有難うと伝える、自己認知と自己決定、本当に大切だと思った。
- ・子どもの良さを一般的な目で見ないこと、行動をほめること、特性を追いつめないことが特に印象だった。
- ・行動は社会的に認められる範囲であればよいことを教えて頂き、いかしていきたいと思った。
- ・褒めて怒る子に対して親が嬉しいことを伝えるなど、事例が多くわかりやすかった。
- ・自己決定の大切さ、進路選択で見学に行くなど参考になった。
- ・怒って宿題をさせていたことを反省した。進路は親が勝手に決めず、自己決定のため子どもに相談しようと思う。
- ・自己受容が遅くなると困難さが出てくること、親の理解の必要性についても納得できた。
- ・障害の受容や適正就労について前向きに捉えられた。
- ・地域の中での日常的な関わりを育てることが生きる安心感である、ということがわかった。
- ・当事者支援はまず保護者から、保護者の価値観が子どもの自己受容に大きく影響すると思った。

- ・社会も少しずつ発達障害を持つ子どもが生きやすいように変わってきていると感じた。
- ・普段は子どもを支援しているので具体的な就労イメージを持ちにくかったが、色々な具体例が聞けてよかった。
- ・学校から就労へのステップはとても大きい。中学生くらいからそれに向けた取り組みが必要だと学べた。
- ・発達児の保育で長期的なビジョンを持つことの大切さを感じており、先生の話はとても参考になった。
- ・就労を見据えて具体的な支援が知れてよかった。年齢や性格なども尊重した関わりが大切だとわかった。
- ・教師の支援者に対する役割や家族に働きかける内容が自分の中で整理された。
- ・慌てず落ち着いて受け止めるためには、やっぱり色々な知識と理解しようとする気持ちが大切だと思った。
- ・海外の取り組みについて聞いたことがよかった。
- ・ペアレント・トレーニングやティーチャーズ・トレーニングの話が聞けてよかった。
- ・自己受容は、就きたい職と就ける職の違いの把握のためにはとても大切だとわかりました。
- ・違う意見を尊重することは、障害のあるなしに関わらず人間関係でとても大切なことだと感じた。

### 要望・改善してほしい点について

- ・会場がとても寒く集中して聞けなかった。
- ・資料の字が小さすぎて見えない所が多かった。
- ・前の机の席が多く空いていたので、そこに座りたかった。
- ・会場が広くてよかったが、席が後ろだったので資料に無いスライドが見えにくかった。
- ・内容がたくさんだったので、全て聞き取ることが難しかった。
- ・休憩は時間通りをお願いしたい。
- ・紀南でも同じ講演を聞きたい方がいると思う。
- ・午前中に開催してもらえると嬉しい。
- ・時間が13時半スタートだとありがたい。
- ・できれば日曜日に開催してほしい。土曜日だと職員全員で出席することが難しいので。
- ・託児があると知らず、ポスターにも書いていただけると有り難い。

### ポラリスへの要望や関心のあることについて

- ・ペアレント・トレーニングやアンガーマネジメント等、県内で受けられる場所を作ってほしい。
- ・ビジョントレーニングをしていれば和歌山に広めてほしい。
- ・子どもが参加できる SST プログラムの開催機会を増やしてほしい。
- ・SST 研修があれば参加したい。
- ・中高齢者の方の就労支援について。
- ・発達障害のある保護者が、発達障害のある子どもを育てる場合の具体的な支援方法について関心がある。
- ・青年期で社会に出る前の SST やグループワークをしてほしい。

- ・新しい制度になった時に噛み砕いて教えてもらえる場がほしい。
- ・県内で発達支援をしている高校があると思うが、その情報は中学校に伝わっているのか。
- ・困った時のかけこみ寺であってほしい。
- ・役場や教育委員会などと協力して一般の方への普及啓発をたくさんしてほしい。
- ・福祉、医療、教育の各分野の人たちと議論できる場やグループワークができる機会を作してほしい。

### アンケートに対する回答

- ・優先席ってなんですか？
  - ⇒ 優先席は、出入り口近くに設けています。小さい子どもさんを抱えて受講されている方や配慮を必要としている方など講義の最中に入出りの可能性がある方にお声掛けしております。
  - 今までのポラリスの講演会を通して頂いたアンケートを基に設けさせていただいたのですが、こちらの対応が悪く優先席が空席でスライド画面が見えにくい後ろの座席を案内したこと等ご迷惑お掛けし申し訳ございませんでした。
- ・講演会のDVDを貸して頂けるとありがたいのですが。
  - ⇒ DVDの貸し出しについてですが、今回の講演会では資料代を頂いていることもあり行っておりません。ご理解頂きますようよろしくお願い申し上げます。

### 次回以降の講演会への要望

- ・米田先生にティーチャーズ・トレーニングについて講演してもらいたい。
- ・平岩幹男先生の話を知りたい。
- ・就学に向けて幼児期における支援方法を具体的に詳しく学びたい。
- ・不登校、生徒指導、特別支援、いじめなどを包括的に考える視点。
- ・思春期・性に関する支援のあり方について。
- ・発達障害者の就活対策に関する講演。
- ・当事者や家族の話。
- ・発達障害と精神疾患について。

この他にもいただきました沢山の貴重なご意見・ご感想を、  
これからの活動に活かしていきたいと思っております。

どうもありがとうございました。